



ハチに刺されて起こるショック症状

夏から秋にかけては、ハチによる被害が起きやすい時期です。日本ではハチ毒アレルギーによるアナフィラキシーショックによって毎年30人前後の人が死亡しています。人を刺すハチの種類は、主にミツバチと、スズメバチ科のスズメバチおよびアシナガバチです。特に養蜂家や農林業に従事している人がハチに刺されるケースが多いようです。

ハチに刺されて起こるショック症状から命を守るには、どうすればよいのでしょうか。

症状

一般にはハチに刺されると、刺された部位に「赤み、腫れ、痛み」などの局所症状が起こりますが、数日で治まります。しかし、一部の人には全身症状が起こることがあります。全身症状には「全身のじんましん、顔面の腫れ、吐き気、嘔吐、動悸」などさまざまなものがあります。重症になると「呼吸困難」に陥り、さらに「蒼白、意識障害」などのショック症状が起こります。この場合、治療が遅れると命にかかわることがあります。

全身症状は、主にハチの毒に対するアレルギー反応によって起こります。アレルギー反応によって起こる全身症状を「アナフィラキシー」といい、ショック症状に至った場合は「アナフィラキシーショック」と呼ばれます。

対策

- 屋外での作業や山歩きをする際などは、長袖、長ズボンなどで肌の露出を避けるようにしましょう。
- ハチはにおいや音の刺激で興奮すると人を刺すので、山などでは香水や整髪料などを使わず、大きな音をたてないようにしましょう。
- ハチは黒いものを攻撃する習性があるので髪は帽子などで隠し、黒い色の衣服を避け、白や黄色などの服を着るようにしましょう。
- ハチを見たら、頭を低くして静かに逃げましょう。
- 外に干した洗濯物、布団を取り込むときは、ハチが隠れていないか気をつけましょう。



ハチに刺された時の対応

ハチの毒針が残っていたら直ちに爪等で取り除いて下さい。皮膚に残った毒針を強く押したり、つまんだり、皮膚に深く押し込んだりしないでください。ハチ毒吸引器を持っている場合はハチ毒を吸い出してから、患部を冷やします。手足を刺された場合は心臓に近いところを縛るなどの処置もあわせて行います。

初めて刺されたのであれば、急いで医療機関を受診することはないでしょう。30分間ほど静かに様子をみてください。ハチに限らず過去にアナフィラキシーを起こしたことがあれば、できるだけ早く治療を受ける必要があります。途中で意識を失って事故を起こす危険があるので、自分で車を運転するのはやめてください。

アナフィラキシーが起こったときは、血圧の極端な低下によって、命にかかわる危険もあるため、「アドレナリン」の注射で血圧を上げる治療が行われます。アドレナリンには、呼吸困難を改善する働きもあります。他にも患者さんの状態に応じて、酸素吸入、水分を補う輸液、炎症を鎮めるステロイド薬の点滴などが行われます。アナフィラキシーを起こしたことがある人などは、「自己注射」といって、その場で自分で注射することが可能です。

※自己注射

アドレナリンがセットされた注射器を刺されたときに備えて携帯し、刺されたらすぐに自分で注射します。アナフィラキシーを起こしたことがある人、職業などの関係でハチに刺される危険性の高い人が希望すると処方を受けられます。「エピペン注射液」が2011年9月より保険が使えるようになりました。

参考文献：「NHK きょうの健康」2010年7月号

アナフィラキシー対策フォーラム

(http://www.anaphylaxis.jp/forum/allergy_bee.html)

どこの病院・診療所の処方せんにも対応できます。

(お薬によっては時間がかかることがあります) あすなろ武川薬局

TEL 0551—26—3800

FAX 0551—26—3810